



ーごあいさつー

いつもサラダ館をご利用ありがとうございます。社長の一貫田です。先の台風では淡路島の中でも特に志筑地区が水害の被害が大きく私の実家も床上浸水し大変でした。しかし、多くのボランティアの方々の協力もあり今ではほぼ前の状態に復興も進んでいるようで安心いたしました。これから、年末年始に向け災害の時に世話をした方や、お見舞いの意味を込めてお歳暮を贈ることもあると思うので、当店ではそうしたお客様のまごころを贈りものに託して送るお手伝いができればと思っています。



社長
いっかんた たかよし
一貫田 剛由

ー社長と奥さんの20年の歩み 最終回ー



社長

前回、阪神淡路大震災からの復興、商売を始め10年を過ぎた頃から、不況の深刻化や競争激化、インターネット普及などで成長を続けていた事業に陰りが見え始め加えて家庭や会社の中でも問題を抱える中で突然の母親の余命1年の宣告を受けたところまでお話をしました。今から5年前のことです。

それでは早速続きをお話しします。

母は病気に対して非常に神経質だったので主治医のすすめで病名は告知していませんでしたので、当時兄と一緒に母には内緒で診断書を持っているんな病院を回りましたが、白血病でもいろんなタイプがあり、母のような高齢での発症の場合骨髄移植も無理で、どの病院でも現代の医学を持ってしても治療は不可能ということでした。私はそれまで仕事が忙しくて実家がすぐ近くでもあまり寄ることもありませんでしたが、この時ばかりは毎日のように顔を出すものですから、ある日父親から本当の病名を知らない母親が毎日のように訪ねてくる私を見て「もしかしたら、最近商売があまりうまくいってなくてお金でも貸して欲しくて来てるんとかやうか」と、いらん心配をするので毎日来たらかんと言われました。この時程、母親に何もしてやれないばかりか頼すら見に行くことも十分に出来ない自分の無力さを痛感したことはありません。



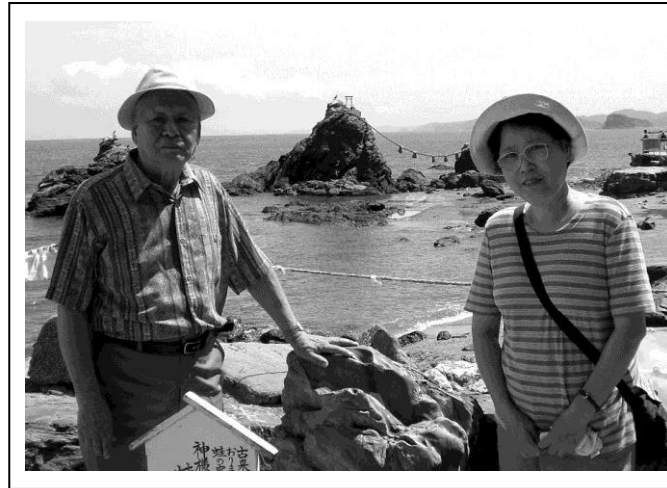
奥さん

以前から「ぼくはマザコンや」とよく口にしていた主人にとって、大好きなお母さんの余命1年の宣告を受けた時のショックは大変なものだったと思います。そのころのお母さんは見た目はとても元気そうで、店にも出ていたし、自転車に乗って出掛けるなどとうてい病人には見えませんでした。

私自身もこれはもしかしたらお医者様の見立て間違いではとさえ思ったくらいです。主人やお兄さん一家は少しでも良くなるようにとの思いもあって他の病院を尋ねたり民間療法で少しでも効果がありそうだと知れば、その物を取り寄せし、お母さんには健康にいいからと言って飲ませたりと本当に一生懸命でした。主人は正直でウソをつくことが下手なので、お母さんに病気のことがバレないかと私はそればかりが気がかりでした。

「感謝」

おかげ様で津名東店も20周年



伊勢 夫婦岩にて 父と母



ミキモト真珠島 家族全員で



社長

母親が元気な内にといいことで、その夏に父母と兄や妹の家族全員で旅行に行った時は本当にうれしそうでした。来年またみんなで行こうと約束しましたがそれは実現することは出来ませんでした。

そしてとうとう年明け正月元旦の祝いの食事中に発熱し、すぐ入院。

医者には「こうなるこの病の場合、10日程しかもちません」と言われました。

そして、今でも忘れません。入院後1週間ぐらいいして、兄の長女が成人を迎えるので

おばあちゃんに晴着姿を見せる為病院に来た時、突然母親が孫の名前を呼んで

「真央ちゃん、どこにおるの。もうおばあちゃんお前の姿が見えん。せつかく来てくれたのになあ。」

と言うのです。そばでその会話を聞いていた私は、その場にじっとしておられず

思わず外に出て号泣いたしました。その翌々日に母親は他界いたしました。



奥さん

お母さんに行った、子供や孫を含め総勢11人の伊勢への旅行は最初で最後となりましたが私にとっても心に残る楽しい思い出です。いっぱい話し、写真も撮りました。

そしてこんな楽しい出来事がもっと長く続くことを願いました。

お母さんは主人の事は気に掛けながらも、いつも私の味方になって応援してくれました。

私が商売に反対だった事や子供が小さかった事などをとても心配し、ごはんの差し入れを

してくれたり、子供の面倒を見てくれたりと、いっぱい助けてもらいました。

そしていつも主人に「何でもよく2人で相談して決めるんやで。剛由一人で決めたらあかんよ。」

と言ってくれました。そんな強い味方のお母さんが亡くなった時は私も本当に悲しく

今思い出しても涙が出てきます。



社長

私も仕事柄、人の生死には慣れっこになっていきましたが、やはり母親の死は特別で

心の中に穴が空いたようになりました。そして母を見舞う際にも逆に心配を掛けてしまう

有様で、今でもその事が心残りです。しかし、いつまでも母の死を悲しんでられない

状態に商売もなりつつありました。それから2年ぐらいいは、店も売上アップの為にいろいろ

新しい事を始めますが何をやってもほとんどうまくいきませんでした。

そして私はその原因を会社の社員や家族の中にあると考えるようになり、その気持ちが

態度に表れ益々状態を悪化させました。



奥さん

お母さんはいつも私たち家族のこと、商売の事を気に掛けてくれていました。その証拠に亡くなってから間もなく、私の夢の中に2回お母さんが出てきたのです。夢の中のお母さんと話しましたが、何か伝えたいことがあったのかもしれませんが、亡くなくても私たちの事が気になるほど心配をかけていたのかと改めて反省し、その後は以前以上に仕事に真剣に取り組むようにしました。ただ、この頃より経理の方はほとんど私がするようになり、状況の厳しさをひしひしと感じましたが、経営のことは素人の私はどうしていいのかわかりませんでした。主人は私以上にもっと悩んでいたのだと今は分かりますが、その頃は難しそうな顔で口数が少ない日が多くなってきたので、私からもあまり商売の話をしないうにしていました。本当に当時は私自身も楽しくない日々を送っていました。今思えば主人の気持ちを理解しようとせずただただこの状況から逃れたいとそればかり考えていました。



社長

会社も家庭も益々上手くいかないし、かといって10年前のようにセミナーに行く時間もお金の余裕も無く、自分の良き理解者である母親もいなく最悪でした。ある日インターネットで経営の情報を見ていた時、事業者向けの教材CDを見付けタイトルが気になって購入しました。それは 横浜国立大学助教授 堀之内 高久先生の『会社を成長させながら社員の絆・家族の絆を強くする方法』という題目でした。私にとって一番衝撃だったのは、先生は臨床心理分野の専門家ですが、大学の前に老人ホームに勤めた時に過去に栄光や成功を得られた方を看取られ、その時に、そんな方でも最終的には家族からも相手にされずひとり寂しく死んでいくケースが多いということです。そして、それは今の時代でも起こっているにも関わらず、経営者というのはそれを知らないで、栄光や成功を求めて会社の業績を上げることにばかりに注力しているということです。

堀之内先生のCDの内容の一部をここで紹介すると会社を経営するということは、ドーイングの作業。何かをすることによって成果を上げてハビング、収入が増える。そしてもう1つ大事なことがビーイング、あるがまま、存在する。その3つの要素を常に満足させるようにしていかないとうまくいかない。特に自分で起業して会社を発展させている会社の社長さんはドーイングで生きてしまっているの、なかなかビーイングに気付かないし、“ビーイング”になる方法を知らない。ビーイングをもっと分かりやすく言えば、自分が生きているという実感を分かち合えるような「私は存在している、何か話が伝わり合える」簡単に言えば共感してもらえる、という事です。女性は特に遺伝子を残さないといけないので、やっぱりできる男、つまり仕事で成果を上げるドーイングレベルの男性が欲しいし、それからハビング収入面でもしっかりとした男性が欲しい。そしてさらにビーイングも十分にこなせる男性が欲しいわけです。もし主人がドーイングとハビングで成果を上げて、ビーイングが無い場合には奥さんはビーイングを求めて心の放浪が始まり、やがて主人と心が通わなくなり、主人も思い通りにならない奥さんよりオアシスのような存在を求めて愛人を作ってしまう、そうすると家庭は崩壊して、最後には家族や愛人にも見放されてとうとう老人ホームという空間の中で死を迎えることになるのです。そして、亡くなる時先生に看取られながら「過去の栄光って、何だったのか」と言って自分の人生を後悔しながら目の前で死んでいくのだそうです。

がんばらう淡路!



社長

振り返ると私も結婚してすぐに妻の反対を押し切って事業を始め、家族との関係というのを犠牲にしてきたように思います。きっと妻は「あなたは会社と結婚していたでしょう。私は未亡人だったのよ。私は子供達とだけ生きてきたわ」と思っていると思います。私の場合は、オアシスを求めて愛人を作るような甲斐性もなかったですが、自分が勝手に始めた事業ですから、そうそうグチも言えないので、自分を理解してもらえる場を求めて自己啓発セミナーに通ったのだと思います。



奥さん

主人はよく「家族の為に頑張っているんだ」と言っていました。私から見れば自分の為に頑張っているように思えました。仕事は大切です。でも私的には、家に帰った時ぐらい子供が学校で何があったとか、今日の晩ご飯はおいしかったなど、たわいもない話もしたかったし家事や食事への感謝の言葉も言って欲しかったのです。いくら心の中で思っている言葉に出さないと伝わらないものです。



社長

私は妻のそういう気持ちに気が付きませんでした。会社が発展していく中でビーイングが犠牲になっていったのです。お互いが寂しいし、孤独なだけとお互いをつなげるチャンスが無いし、分かち合える機会も無いままに20年近くが過ぎてしまいました。これは妻だけでなく、会社の従業員に対しても同じことが言えます。だから会社の状況が悪くなった時でも、自分の悪い事は言わずに、社員や家族の責任にしてしまうのです。20年かけてようやくこの事に気が付きました。私は不器用な人間です。気が付いて心の中で思っているでも上手く言葉に出して言えません。妻とはこのCDと一緒に聞きましたが、社員にはプライドもあるしそこまでは出来ませんでした。



奥さん

主人と一緒にこのCDを聞き、お互いに今までの思いをぶつけ合いました。これまでは私を分かってくれたいと思っただけで主人の本当の気持ちを理解しようとしませんでした。このCDをきっかけにいっぱい話せたことで、今まで離れていた主人との心の距離が近くなった気がします。



社長

今回サラダつうしんで、私たちの20年の歩みを書くにあたりこの20年間を総括して自分なりに正直に過去のあやまちも振り返って書くことで、社員もきっと読んでくれると思うので私の気持ちを理解してくれるよい機会になると思いました。私は現在のギフト業が大好きです。最初は自分の思うように仕事がなくて脱サラしてこの事業を始めましたが、今では近くにサラダ館があって良かったと多くのお客様から頼りにされ何より「本当にサラダ館に注文して良かった。ありがとう」と感謝の言葉をいただけるのがとてもありがたく、その時はこの仕事を選んで本当によかったと感じます。今はギフト業に限らずどんな商売も大変な時期です。最近では何をすることも自分ひとりでは決めず妻や社員に相談するようにしています。そうするとすべてが自分の思い通りにならない事もありますが、その分自分ひとりで何でも抱え込んで悩むことも少なくなりました。今思うと、母はきっと私があのままずっとこのことに気付かず同じ事を続けていて最後には家族や社員にも見放されて、ひとり寂しく死んでいくような人生を送らせない為に自らの死をもって私に気付くきっかけを作ってくれたんだと思います。最近では自分の為だけでなく、今を共に生きる家族や社員と共に苦勞を分かち合いながらお互いの幸せを得るために会社を発展させていこうと思います。そしてどんなに困難な時でも「何とかかなる」とくよくよせず毎日頑張っています。

今回は最終回ということで、今までよりちょっと話が長くなりましたがこれもちまして私たちの20年の歩みを終了とさせていただきます。4回にわたりご愛読いただきありがとうございました。私たちの経験が皆さま方に何か少しでも参考になれば幸いです。これからもサラダ館津名東店を25年、30年と未永くご愛顧の程よろしくお願ひ申し上げます。